

# あいさつ

福島県スキー連盟 会長 阿部 和博

「福島のシュプール」第51号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和7年度は、前年度から打って変わりシーズン当初から降雪があり、福島県スキー連盟としましては計画的に事業を遂行することができました。関係諸機関並びに役員・会員の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

本シーズンは、オリンピックイヤーとして2026年2月に第25回冬季オリンピックがイタリアミラノ・コルティナダンペッツォで開催されます。スノースポーツへの関心が高まるシーズンでもあり、本県連からも出場が期待される選手がいます。このような機会に支援の輪を広げ、地域活性化につながる活動をしてまいりたいと思います。

本年度は、前年度を継承し（公財）全日本スキー連盟等の動向を見据え、さらには課題と反省に基づき、計画的かつ効率的に各種事業を遂行します。

具体的には、会員数の減少に伴う効率的な事業の運営に努め、予算の適正な見直しと配分、運営に伴う経費の節減など、収入と支出のバランスを見極め、各種事業のより効率的な運営にあたります。

総務本部事業としては、ホームページによる情報発信力の強化、組織運営の情報共有の徹底、メールを活用した情報伝達手段の再考等、効率的な組織運営を図ります。

競技力向上については、県スポーツ協会の強化対策を踏まえ、長期計画に基づく継続した選手の育成強化、東北ブロックで掲げるコーチ、監督のスキル向上に努め、国民スポーツ大会や各種全国大会、世界大会やオリンピック等で活躍できる選手の育成を支援します。

また、教育関連では、スキー・スノーボード指導員の資質、スキルアップを含めた指導力の向上、新たな指導者の育成・確保など充実を図ります。また、安全対策では、各スキー場の安全安心なスキー場運営の手助けとなるよう、パトロール隊員の研修会誘導など技術員のスキル向上に努めます。

各事業については本部長を中心に「報告・連絡・相談」を徹底し、情報の共有化を図り、強いガバナンスのもと昨年を引き続き「ワンチーム」でスキー連盟の目的達成のために努力してまいります。令和8年度の各種事業に対しましても、会員の皆様はじめ福島県・各市町村・関係諸機関・東北索道協会福島地区部会様の御理解・御協力をお願い申し上げ、あいさつといたします。